

男鹿市教育委員会 クマ出没対応マニュアル

令和6年6月 男鹿市教育委員会

☆クマ(ツキノワクマ)の習性

- ・昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯に最も活発に活動する。
- ・農作物や実のなる庭木などに通うことを覚えたクマは、人に見つからないよう、夜に活動することもある。
- ・警戒心が強いため、うす暗いところに出やすい。
- ・エサを求めて移動する。行動範囲が広い。
- ・嗅覚が鋭く、においにつられてくることがある。
- ・臆病だが、脅かすと怖がって襲ってくることもある。
- ・自然界にない大きな音、音楽が苦手。

【春】 冬眠から目覚める季節

- ・植物の新芽や山菜、タケノコを求める

【夏】 子グマ→独り立ち、大人グマ→交尾の季節

- ・山の中に食べ物が少ない季節のため、農作物などを狙って人里に出やすい

【秋】 冬眠に備えて脂肪を蓄える季節

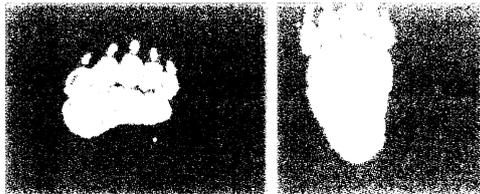
- ・活発に活動する
- ・食べ物を探するため、夜も活動する

【冬】 冬眠の季節

- ・秋に十分に脂肪を蓄えることができないと冬眠が遅れることもある

☆クマ(ツキノワクマ)が近くにいるサイン

- ・糞(ふん)がある。色や形は食べ物によって変わる。
- ・足跡がある。(横幅10センチくらい。指が5本。)
- ・クマ剥ぎ(スギやヒノキの根元から2mくらいまでの樹皮が剥がさせた痕跡)がある。
- ・クマ棚(樹上に折った枝を集めたもの。クマが枝を折りながらドングリなどを食べた跡)がある。



↑ クマの足跡(左:前足 右:後足)



← クマ棚

☆各校における平時の対応策の例

- 保護者や関係機関と、クマが出没した際の対応を協議しておく。
 - ・児童生徒への安全指導(下欄参照)とクマ遭遇時の対処訓練。
 - ・関係機関との連絡体制(別紙参照)とパトロール等の依頼。
 - ・「こども110番」等に有事の際の保護を依頼。
 - ・保護者への情報提供と注意喚起。
 - ・登下校時の対応→引き渡し、保護者送迎、集団下校など。
 - ・外遊びや外での体育、部活動の対応→状況に応じて室内の活動に切り替える。

- 校地内にクマを近付けないための対策を講じる。
 - ・実のなる樹木等は早めに収穫。
 - ・朝や夕方、外での活動の際に音楽をかける等、クマが嫌がる音を出す。
 - ・クマのエサになるようなものを放置しない。

☆児童生徒への指導の例

- 自分の身を守り、クマを寄せ付けないための方策
 - ・登下校時に音の出るものを携行する。(クマ鈴、自転車のベル等)
 - ・食べ物を持ち歩かない。
 - ・1人で行動せず、友達と一緒に行動する。
 - ・クマが近くにいるサイン(足跡など)を見つけたら、その場を離れる。

- クマに出会った際の対処法
 - ・ゆっくりと後ずさりして逃げる。
 - ・カバン等の持ち物を置いて、クマが気をとられている隙に逃げる。
 - ・大声で叫ばない。(クマが興奮する)
 - ・石や棒を投げつけない。(クマが興奮する)
 - ・「こども110番の家」や商店、公共施設等に逃げ込み、保護してもらう。

- クマに襲われそうになった際の対処法
 - ・両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる姿勢をとる。(頭や顔を守る)